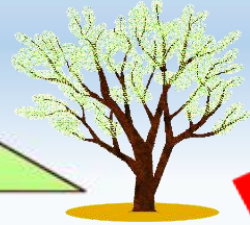


2026年(令和8年)4月1日



第246号

子どもから大人まで楽しめる地域密着型の春のフェスティバルを
花の湖で開催します。

みんなで作る、花の湖の音楽日和

花の湖音楽フェス 2026

音楽×自然×ファミリー

日時：4月12日(日) 10時～16時

場所：花の湖野外ステージ、ひろば ほか

参加費：無料(体験ブース 一部有料)

【同日開催】花の湖イキキウオーキング

時間：9時半スタート(9時～9時20分受付)

問合せ先：NPO法人やさかイキキ倶楽部

☎ 75-3335

音楽ステージイベントのほか、飲食・物販ブース・各種体験ブースなど、
ファミリーで楽しんでいただけるイベントです。

春の一日を「花の湖」でお楽しみください。



※小雨決行・荒天中止

問合せ先：やさか観光協会 ☎ 75-4444

「おはなしの会」で うどんを作ったよ!

月に1回、坂下公民館図書室で開催している「おはなしの会」は、季節の絵本の読み聞かせや手遊び、簡単な工作などを楽しむ会です。



1月31日(土)は、「うどん」をテーマに、うどんの本を読みました。その後、大きなビニール袋に粉と塩、水を入れて混ぜ、みんなで踏んでうどんの生地を作りました。

この日は36人の親子の参加があり、作った生地は分けてご家庭に持ち帰りました。

5月からも、「おはなしの会」は月に1回、公民館で開催します。参加費無料で、予約も必要ありません。開催日時は、さかしたタイムズ4ページ目のカレンダーをご覧ください。

問合せ先：坂下公民館 ☎ 75-3115

親子で味噌作り

2月8日(日)、坂下公民館で、「こうじネーター」として活躍中の小木曾淑子さんを講師に迎え、「味噌作り」の講座を開きました。園児・小学生親子を対象にした講座で、中津川市青少年健全育成推進市民会議坂下支部の協力のもと行われました。

参加した子どもたちは、こうじと塩を混ぜ合わせ、つぶした大豆の感触や味を確かめながら楽しく作業をしていました。できあがった味噌は、10月以降に食べられるようになります。観察しながら熟成を待つ時間も、親子の大切な時間になりそうです。



マイナンバーカード お問い合わせコールセンターのお知らせ

3月3日（火）より、マイナンバーカードに関するお問い合わせコールセンターを設置しました。
マイナンバーカードに関するお問い合わせは下記電話番号にご連絡ください。
マイナンバーカードの休日窓口についてもコールセンターで予約することができます。

☎ 0573-66-1120

受付時間 8時30分～20時

土・日・祝日もお問い合わせいただけます

区長会通信

坂下地区の皆さんへ

日頃は、区長会活動へのご理解、ご協力を頂き、ありがとうございます。
さて、令和7年度、主に下記3項目について活動をしてまいりました。

①安心：地域防災力向上

- ・地域自主防災会規約（雛形）の作成及び、各自主防災会への展開を致しました。
- ・自治会ごとの避難所の割り振りや避難所マニュアルの見直し
- ・防災訓練において二次避難訓練の実施
- ・クマによる人的被害を受けて被害防止の講演会の実施

②健康：坂下診療所の民営化

「坂下診療所の純正会への事業譲渡断念」との方針決定（7月11日）を受けて、必要な地域医療確保（坂下診療所存続検討）の為、市医療福祉部との合同会議を継続実施。

その結果、中間報告（2月17日）として、令和8年度は、

- （1）内科診療の医師を確保・坂下診療所は存続 （2）経営改善への取り組みを継続実施

引き続き市の動向を注視し、地域総合医療センターの在り方やスペースの有効活用などについて、住民代表として皆様のご意見を市に伝えていきます。

③魅力：地域資源・伝統文化行事を活かしたイベント支援活動

坂下地区の活性化を図る為、椈の湖や、道の駅きりら坂下を拠点とした、『椈の湖音楽フェス』『与三郎まつり』『椈の湖そばの花まつり』『やさかふるさと花火大会』などのイベントを各実行委員会が中心となり、関係団体と連携し、坂下地区の活性化に取り組みました。

結果、坂下地区内外から多くの方が訪れ、賑わい創出の成果が安定してきた年でした。

令和8年度も引き続き、やさか地区の区長会及び、まちづくり協議会、社会福祉協議会、やさか観光協会のほか、関係団体と連携を取り、組織的な推進活動を実施していきます。

今後とも、ご理解、ご協力を宜しくお願い致します。

坂下・川上・山口小学校統合準備委員会が発足しました

少子化の影響により小規模化が進んでいる、坂下小学校・川上小学校・山口小学校の学校再編に向けて様々な協議を進めるため、『坂下・川上・山口小学校統合準備委員会』が設立されました。

1月29日（木）に第1回、2月13日（金）に第2回の会議が開催されました。

準備委員会は、3地区の地域住民代表者、保護者の代表者、教職員などにより構成され、小学校統合に向け、必要な準備、調整など具体的な協議を行います。

これまでの会議で協議され、決定した内容は以下のとおりです。

統合準備委員会 役員選任

会長	桂川 一二さん	（川上まちづくり推進協議会）
副会長	小幡 隆徳さん	（坂下まちづくり協議会）
副会長	宮下 紀明さん	（山口区長会）

統合の目標期日：令和9年4月の統合を目指し協議を進める

統合の方法：3つの小学校を統合し、新たな学校とする



郷土文化財紹介

郷土文化財保存会会員

たぐち のりいち
田口 憲一

＜坂下の養蚕・蚕種・製糸業 その9＞ ～製糸業3～

明治以降全国に沢山の中小製糸工場ができました。その盛衰の一部を紹介します。

明治40年の県の統計書(中津の勝野製糸は含まれていない)には恵那郡内に32の工場があり、坂下には創業順に古谷製糸(83釜)、ヤマニ製糸(16釜)、吉村製糸(20釜)、曾我製糸(45釜)、カネ久製糸(23釜)、丸一製糸(30釜)の6工場があります。大正の最盛期には16工場と3倍近くに増えています。一方こうした中でも明治後半から始まった信用組合法が徐々に機能し、「組合」が養蚕・製糸業界にも広がっていきます。加子母村では明治39年養蚕組合ができ、大正2年には県下初の組合製糸ができました。さらに両組合が協力することで、繭の買い叩きがなくなり女工の出稼ぎが減りました。この流れは近隣町村にも広がります。



女性工員後方の糸を巻き取る枠が5つで、これを一人ですり受け持つ。

写真 5条繰座繰器の繰糸場
岡谷蚕糸博物館蔵
ふるさと歴史製糸場より

大正3～7年の第一次大戦の余波で、以前の債務国から一転して債権国となり軍艦などの軍備を拡大して、世界の五大国となりました。この頃日本の農家の6割が養蚕をしていて、生糸の輸出を支えていました。『いろりばた』によると大正中期には坂下でも大変な養蚕ブームで、繭1貫(4kg弱)3円4円と毎年値上がりし8年には10円くらいまで高騰したそうです。

しかし、景気の変動は常に繰り返し、昭和4年の世界大恐慌が起こると日本の生糸価格は大正8年の4000円以上が540円と大暴落します。このため隆盛を誇った勝野製糸は、関東大震災で横浜の倉庫が焼失、茂木商店の破綻などもあり、昭和6年に廃業します。その影響で、数百人の工女が失業し、商店などへの悪影響がでました。周辺農家が生産する20万貫の繭の売り先が無くなると大変なことになります。関係者はあらかじめ、対策を練っていました。

十六銀行中津支店、付知銀行などが倒産したなかで、組合製糸「濃信社」が誕生します。付知、福岡や長島、東野などでも組合製糸が誕生します。

それ以前の明治末期までは繭商人が農家へ買いに来ていました。なかには悪質な者がいて、いろいろと難癖をつけて買い叩いていました。早く売らないと蛾が出てしまうので言い値で売るほかありませんでした。

→繭の買い付けにきた繭商人と繭を背にした生産農家夫婦。農家の庭先の風景。
大山錦子画より



大正になって養蚕が盛んになると、坂下でも役場が宿屋などを借り上げて臨時の出荷所を設け、そこに岡谷などの製糸会社がいり付けに来ました。農家は一番高く買ってくれる所へ売れば良くなりました。出荷時期の坂下の街は繭一色で賑わい、活気に満ちあふれていたようです。木曾方面からの持ち込みもあり、料理屋・飲食店は大繁盛でした。『ふるさと坂下』に「繭代が入って懐が大きくなると、つい赤い提灯に目が引き寄せられ、一寸一杯ひっかけると、酔いがまわるにつれて、一杯が二杯、二杯が三杯、あげくの果ては座敷に上がり込み、家族の待っている我が家へ帰った時は、汗水流して働いた金は雀の涙と化していた「兵もいたとか」とあります。悲喜こもごもでした。

「濃信社」は大正15年、火事で休業していた古谷製糸の工場・倉庫・機関を借りて創業。当初は器械48釜でしたが、昭和3年には器械50釜の第2工場を増設、機械化を進めて、100人余の工員がいました。

組合製糸の「濃信社」ができたことで、坂下・木曾の養蚕農家は安定した出荷ができるようになりました。



毎月第3日曜日は「家庭の日」 中津川市青少年健全育成推進市民会議

4月19日 ほんとなかよし おともだち 【23日は子ども読書の日】

坂下高校
賢・剛・優

卒業証書授与式



3月1日(日)、第23回卒業証書授与式が本校体育館で行われました。1年生・2年生・保護者が見守る中、厳かに式が進みました。学校長は式辞の中で「周囲の方への感謝の気持ちと前向きな気持ちを忘れず、笑顔を絶やさずに過ごすことで何事も良い方向に動いていく」と述べ、生徒会長の吉村亜栖陽さんは送辞の中で『地域探究科』『福祉科』各科の先輩への想いを伝えました。

また、答辞では卒業生代表の藤川陽向さんが、3年間の思い出と周りの人々への感謝の気持ちを一言一言に想いを込めて述べてくれました。地域探究科35名、福祉科7名、計42名がそれぞれの道、それぞれの未来に向かって歩き始めました。

坂下中学校
超升先輩

継承・感謝の会



2月20日(金)、『継承・感謝の会』を行いました。『継承の部(前半)』では、3年生が1・2年生に向けて、3年間の思い出や成長、後輩に託す思いを語りました。学習に取り組む気持ちの変化、行事を通して成長できたこと、仲間とのつながりの大切さなど、卒業を間近に控えた今だからこそ感じられる「努力を継続することの大切さ」や「支えてくれた仲間や家族への感謝」について、心を込めて後輩に伝えました。『感謝の部(後半)』では、2年生が3年生のすごいところを寸劇で披露しました。ユーモアを交えて演じる姿に心が和むとともに、全校を力強くリードしてくれた3年生の頼もしさを改めて実感しました。「超升先輩」の伝統を引き継ぎ、1・2年生がさらに飛躍する姿が楽しみです。

坂下小学校
ひとりだち

6年生を送る会



2月25日(水)、6年生を送る会を開催しました。

6年生は、5年生の『威風堂々』の演奏のなか、4年生がつくる花道をくぐり1年生から3年生の拍手のなか、入場しました。1年生は歌と言葉、2年生は一人一人にメダル、3年生は呼びかけと歌、4年生は垂れ幕に6年生のよさを伝えました。また5年生は会の企画や進行、演奏などを行い、楽しい会をつくり、それぞれの学年が工夫をこらして6年生への感謝の気持ちを伝えました。

6年生からは呼びかけと『ふるさと』の合唱で在校生へお礼と感謝を伝えました。会の後半では、1年間、縦割り班と一緒に遊んでいたグループでゲームをして、締めくくりました。お互いへの感謝と応援の心が行きかう素晴らしい会でした。

やさかこども園
かがやく瞳

お別れ遠足



3月4日(水)、もうすぐ卒園する年長さんとの思い出作りとして、「ふれあい牧場」へ行きました。前日は雨でしたが、この朝からとてもいい天気、絶好の遠足日和でした。牧場に着くと広い青空と緑の芝生が広がっていて、それだけで子ども達は興奮していました。子ども達がこの遠足で1番楽しみにしていたのは、動物のふれあいと餌やりです。最初は動物が怖くて触れなかった子もペアの大きい子が一緒に餌やりをしてくれたり、声をかけてくれたりしたので、少しずつ動物に慣れ、最後には餌をあげられるまでになりました。たっぷり動物と触れ合えて、心がとても癒されました。命の暖かさを直接感じる事ができた1日でした。また、もうすぐ卒園する年長さんとも一緒にたくさん遊ぶことができました。

《4月の主な行事》

日	曜日	行事名	時間	場所
2	木	臨時区長会	13:00~	坂下総合事務所第2庁舎
6	月	やさか地区観光安全祈願祭	10:00~	椈の湖
		やさかこども園 入園式	10:00~	やさかこども園
		いきいき元気教室	13:30~	坂下公民館
8	水	坂下中学校入学式	9:00~	坂下総合体育館
		坂下高校入学式	13:30~	坂下高校体育館
		坂下小学校入学式	13:50~	坂下小学校体育館
12	日	椈の湖イキキウオーキング	受付9:00~ 開始9:30	椈の湖
		椈の湖音楽フェス2026	10:00~16:00	椈の湖 ひろば ほか
15	水	行政・人権相談	13:00~15:00	坂下総合事務所第2庁舎
		区長・自治会長合同会議	19:00~	
24	金	定例区長会	13:00~	坂下総合事務所第2庁舎
27	月	やさか地区農業委員会	9:00~	坂下総合事務所
		農地相談	9:30~	

慶弔のお知らせ

2月11日から3月10日の坂下総合事務所への届出はありません。

人口と世帯数(令和8年3月1日現在)

人口	3,835人(前月比1人減)
	男1,859人、女1,976人
世帯数	1,595世帯(前月比増減なし)

ごみの収集日

燃えるごみ	毎週月・木曜日
燃えないごみ	4月1日(水)
資源・硬質ごみ	4月8日(水)
大型ごみ	4月17日(金)
有害ごみ	4月22日(水)

編集・発行
中津川市 坂下総合事務所
電話 0573-75-2111
FAX 0573-75-4704
Mail sakashita-office@city.nakatsugawa.lg.jp